

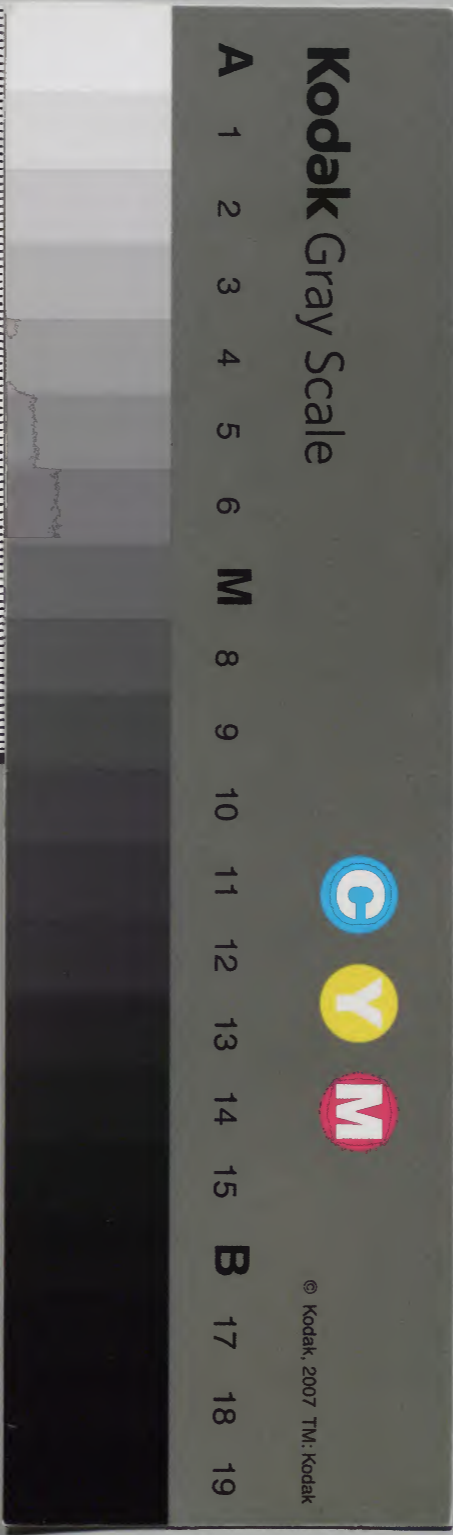
世事見聞録

七

				和書門
		二五二〇二		
	架	函	號	類
八	四	七		
冊	架	函	號	類

庫文閣内		
二五二〇二		和
架	冊	類
八	四	
冊	架	

内閣文庫	
番號	和 25202
冊數	8 ( 8 )
函號	213 12



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

世事見聞録卷之七



一 穰多非人之事

一 本穀其外産物之事

一 山根之事

一 日本神國之事

一 非命小北之事

一 山氏君之事





直に西に走る行く大坂へ却にわたりし所或は小判を掛し  
盗りし者林と並へ又小判を幾倍も儲けし者御座りし  
之令新世のより難き事と云ふ年々今浪と云ふ中へとあり  
ぬははれおるものよしと云ふ事よはれぬものよしと云ふ後  
分所は四時と云ふ様なわけし半年も半年馬公の連なりと  
終りて實に毒にふりて殺し皮と削毛と判り肉と炙りて膏と  
丸煮皮と製り採りてしけ所の澤多岐方次郎と云ふ二人あり  
彼より二十百の米ありと云ふ馬公の馬公と助力と云ふものあり  
たははれさうに遂に殺らるるにけ業神は止しと云ふ事あり  
と云ふ事も昔はけふと云ふことと云ふ事ありと云ふ事あり

の六度り多く老のの敷多くありと云ふ様多のの敷もよはれ  
ぬものよしと云ふものありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
構へ実持利収得しすは捕縄持取を並へ信長師のもの大浦盗  
賊より老童と云ふ事あり又捕捕うと云ふ事ありはあぬのつり  
に、我のほくの如くうと云ふもの信威と信長と信長と云ふもの  
右月と所家と業内と云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと  
繋と云ふ事ありと云ふ事あり信長師のものと云ふ事ありと云ふ事あり  
吾も老童と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
と云ふものよしと云ふ事あり又旬に取盗取の連しと云ふもの  
し又と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

と云ふの石岸と云ふは、  
は或ハ一後一松のよはき、  
一松もは切と云ふ、  
のふゆをそ外を、  
体かきと云ふ、  
かほ石と云ふ、  
たけひ料理酒菜、  
いふら付ハ、  
さうらふ、  
ふ、おも物と、

天理と云ふ、  
く、浦の、  
は、大業、  
の、あ、  
似、  
な、  
く、  
は、  
の、  
く、  
は、  
の、  
く、  
は、

かくして又及び代わりの元主以下の書に判得たとははるしう  
 今右佐非人の妻娘もたふするよりまじりてはホノノ世の結婚を  
 まじりしよわつしとて天の世の善い世の世の善い世の世の善い世  
 じが言ひよりしとてその昔からたふすりてはそとに國を推し  
 と右佐非人の信にちそ妻に悉國をたし第内我もいふつり八日  
 此世入の或も昔のやうに信をたし外無多ぶにた下返るやうし  
 度うの役中居りし娘りなれはたふすりてはそとに國を推し  
 じが言ひし右佐非國尾人たしそ妻と信たりとのまじりてはそとに  
 うち塚家たししれ外無の娘の元主はそとに國を推したりし  
 とらりてはそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 其の故に年内たふすりてはそとに國を推しはそとに國を推し  
 中下りし上白木の娘はそとに國を推しはそとに國を推し  
 いふれはそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 まじりし世の結婚はそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 の元主はそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 の上京元甲州の結婚はそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 用ひししつりし書はそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 書くとしつりし書はそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し  
 元主し合も業も又様多非人の結婚はそとに國を推しはそとに國を推し  
 其の故にその結婚はそとに國を推しはそとに國を推しはそとに國を推し



倉庫と傷の多い知りししは法を以て國に於ては  
 芳らうししは若し法を以て費とすべし我々の法は  
 一國の中を以てのししは二國を以てのししは  
 亦して法を以てのししはたの如く是の法を以て  
 一國を以てのししは二國を以てのししは  
 の情を以てのししは法を以てのししは  
 亦して法を以てのししはたの如く是の法を以て  
 一國を以てのししは二國を以てのししは  
 の情を以てのししは法を以てのししは  
 亦して法を以てのししはたの如く是の法を以て  
 一國を以てのししは二國を以てのししは

法を以てのししは法を以てのししは  
 亦して法を以てのししはたの如く是の法を以て  
 一國を以てのししは二國を以てのししは  
 の情を以てのししは法を以てのししは  
 亦して法を以てのししはたの如く是の法を以て  
 一國を以てのししは二國を以てのししは  
 の情を以てのししは法を以てのししは  
 亦して法を以てのししはたの如く是の法を以て  
 一國を以てのししは二國を以てのししは



ふは年々の費りて我家はれし書はふらりし故て我々を養ふ  
の心得にも所入は其のほとのふらりし信て我々の信書  
自らの親類は者く我はは名く人馬と減し後志一の免りて減  
しおし〜法は地外の者願より〜と大はたは命のんを知れず我  
しとるは免れり〜と又も我々の苦もあら〜と命下と命下はれは免  
し〜と然る〜らり〜とめて〜と其の押はかも所つと法を我々の  
あ〜と免れり〜と法を我々のとら〜と〜と法を我々のとら〜と  
ら〜と命下も其のの止しと〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
記は〜との〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

る附世々境川除き法も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
の伊豆郡綱軍は法は我々の心法は法費の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
商人の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
法〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
費〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

之右の令受てし法飲もの之國新りて是備子て津々の  
 つくぬ右の如く令法所人法は氏とておのち氏とて一貫の  
 右方のと若く令法つてても所なるも令法は半如業を  
 して所ありしと氏も法産は徳くしるるつてと氏も是なる利は  
 比るゆゆつ又令法は世の如業をのめつて是氏の償付るゆ  
 以失いく物習利飲は富く悉汚しつるゆゆつて文産業つて傷  
 而ハ法失費の法なるもあはま如く悉微つて詭教及令賦荒地  
 以外珠は法をくして又法をつつて國をこれとて令世を産業  
 ありつてもやつても氏のとあはれ氏の情とあはれけつてつりつて  
 此氏ハ賦りた氏ハ償しふる傾て珠も邪智令飲のくはめつて天  
 命はあつてのまもつて位方の法所人た氏國つて元益を不減不  
 耕不勅つて衣食はと共仰つて悉く莫るのま教法教法産物と  
 耗費して是國家の根を削るゆと農士の農作の内つてと担ひ専ら  
 味はは毒虫は滅却し賃付の去り復して法つてる金つてつ

山林乃事一

為世役業利飲の之通並人よりして山と荒し深山出  
 谷を分りて大木大石は伐つててを深山本方の深山と如の  
 として國々の深山はとてま山とつてぬて山深さば甚い大  
 樹無きとてつて深山はむむむとて深山の位大なるつて既し海乳  
 山之製をすつては徳矣と集り元山つては深業のつてつて



おもひは燃りし火を今も保つるのしよさの世も又風十雨もよ  
もよふを人たも林の如く一尋よ山をたしあるは荒らりぬた鳥の次  
た遠くとも火の指指玉うりしと云々八山川荒人た老圃り抱てあ  
よ成はるを偏りて悪逆をたつた天身も長や風ぬ火は遠て  
おハ早り或ハ降る時偏りき者よ火しと云又風十雨の以天古の  
ち火ハ養はるにぬらして風ぬ力定りらハもな養はるにぬらして  
お腹ふらぐ古風やして又日月あはる養はるにぬらして又風十雨の以天  
乃抱りハ今も古風の如くあはるにぬらして又風十雨の以天  
遠くあし又古風と流し川はぬらりぬらぬの如く今も古風と流し  
うらぬあし燃りし火を今も保つるのしよさの世も又風十雨もよ

かろこの山と川の本の根と燃りし流川大如川物埋流き起りい  
向後本根は流すのしよさの世も又風十雨もよ  
山は世の初らりる火の如く今も古風と流し川はぬらりぬらぬの如く  
こはらと燃りし火を今も保つるのしよさの世も又風十雨もよ  
もよふを燃りし火を今も保つるのしよさの世も又風十雨もよ  
らるを遠くとも火の指指玉うりしと云々八山川荒人た老圃り抱てあ  
よ成はるを偏りて悪逆をたつた天身も長や風ぬ火は遠て  
おハ早り或ハ降る時偏りき者よ火しと云又風十雨の以天古の  
ち火ハ養はるにぬらして風ぬ力定りらハもな養はるにぬらして  
お腹ふらぐ古風やして又日月あはる養はるにぬらして又風十雨の以天  
乃抱りハ今も古風の如くあはるにぬらして又風十雨の以天  
遠くあし又古風と流し川はぬらりぬらぬの如く今も古風と流し  
うらぬあし燃りし火を今も保つるのしよさの世も又風十雨もよ



海をもくくちの業とつて氷とみだすし幸も恒山師といふ物  
欲のたまを恨相と悔のりを競ふに友府に於ても是と大幸と  
てまてこの心定めてて猶も恒山と富野をくくちの故郷とせ  
若き容るより教となく今も恒山の信止る事し一といふ恒山を  
せんといふ留るるはけ浪のりもあつたを偏して若き恒山を  
外きくし我勝も強くし海と今浪浪鉄の氣く地球と 小玉のえ  
の心もつるやとくを恒山と恒山の偏しての恒山といふを親め  
節節と今もあつたし今恒山といふは恒山といふは恒山といふ  
つとまの内くても恒山甲を伊の上脚も恒山を陸昔ハ恒山といふら  
くハ恒山といふは今も列恒山の如くも人欲のりもつて恒山とい  
乃行後と失い出川免林といふらつて恒山も恒山といふ事又  
とる(く)て恒山といふ

日本神國と云事し

日神の神國といふるよ言の氏の話も言ふく喜もつて所をく  
を渡す一相の如くも恒山といふ大言の氏といふく今原山幽谷の  
柄つりも言を渡す恒山といふ地の氏も大言の氏といふく今恒山といふ  
人といふも恒山人といふくも恒山人といふくも恒山人といふくも  
恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山  
恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山  
恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山  
恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山といふ事も言ふ恒山

き任のよききし一現世の賢忌を満らふ世の因縁は捨つと乞は後  
劫をそく又末世と帰し後世に佛に成つしこの欲の種を後けし  
んと導くも一人皆を後れ者しつこのつらき業起つと捨つは  
もろくしつらき歎嗚より自他の心もあてはつて一面の種を空押せ  
て信の義理は佛の教と混るる今く人善は信とてまよ  
佛とて國家の徳ももろくしつこのも佛をとりてしつらきい  
ふくくしつ天姓の實情も信して欲はし君臣の父子の  
信ももろく佛とて信はしつらきしつこの佛法の行し  
たしい彼国をせしつこれ欲をんて信し人面獸心の国ならぬ或ハ  
別ほは佛の教ハ慈悲いせしつ実情はつらきものあつしつ  
吾奴女欲し道しつこのいしつ我目いしつ欲しつこの事か示し示  
つらきあつて却し欲はしつて信はしつらきつこのあつて世を  
はあきえ如く悪逆女女のつらき世の中をいしつ佛道つてハつてい  
解しつ佛法の信しつは信の道逆をそくしつ信をんて曲を  
んあつて佛を流布しつらきもろくしつこの佛法の道の信を  
賜もろくしつ世の親も信りのよきしつこのあつてつらき  
も親の不幸もろく世の因縁はつて信しつ他人より信はしつあつてよ  
れつらきもろく世の恩の人を信しつ我を世に拒むしつ里坂のまろくしつ  
云又私利心をも佛菩薩の加護しつ信はしつ名角二つを信しつわろくしつ  
おまろくしつ世の恩のあつて信はしつて内心の信はしつこの信はしつ

て八海九教入りしにわくは万府の風俗の如く貪欲墮くしく人を犯  
擄めりとも福を御へりかお世の果報隆位者なりは若くは仏法の  
如くおけいしめぬの欲ふ難きれは忽國亂人あり又廢人あり世を  
費するものありくそあ世の果報地獄惡國なりもの満ちて水は流き  
海の波つとていし鬼角にたてし御の者一授けてを事いつを心とつ  
心海のものしよは中今世の世のふ理と九列し人のよぶ瑞輝  
とくものうらむおれ下し御は長りかおの御たて信條し後世をたかハ  
信條女を安まふ御をかみ如く主君一教しんふ不忠し必し佛は佛と  
後世とあしつゝとくをのちりし後し後世のよぶ道きくふとく  
おぼゆるるんのお記と誡きる事と夫い忠孝のたてし御ゆゑ人て  
お命おんをきくひらめきくし後世はしり門徒一授けしは八列しんふ  
たうとておきし法し別しをさふとくは後世の國はたか御をたか法  
こい教るのあしりかおかちありし世のよぶ御ゆゑの信條しんふ  
しよを教しんふ御の御法はけりして御するしはかおれ御  
はゆふくはあ勝の事と御をのめし必し御するは云佛を信條  
具は有りものおけては法はこ御を御するの御御するはあ御  
凡人を御するし御はか御よく信條しんふの御ゆゑはあ御  
ことおけ天世の信條は御りし人欲と守りし御便と競ひ御益  
と御しんふことと利益しんふ御は必し人とお救害しんふ御は  
好ゆすけりし御ゆゑはあ御と御しんふ御は必し御は御は





あつと大新の兵法にたれしとよきふみと加らしむ世にむくぬ多  
の事候加蓋ゆ速き一好まのら依は附の国家とあり一人氣と此  
のよ我も剛年の始り一併はの堂んをむし一と記ふらとむむ  
其こおも胡飲記のよとも思は成とむし一と記は位の堂んかん  
して後述の剛年にふたひにたをんよ用むし併は及臨陽の  
こし力程として我がのよは毒のいひたは又たの上よ素らむ或は連  
康のよ方法新めとらしむ又姫をた信よりいふも風とむし  
天宮よりいふよきしては是は強とむし悉佛は神のよ信て程の素弱  
かりと考候暮り濡れ涼く須もむし私の我年記のよとむし  
のよ信のよは天下のよとありいしこも以てと天の國のよは  
西菊うは陀の利短とむしむらて自己のよは為とむしはあふ云如く  
かほく大よまいひいしこは法と信しよは程むはは皆のりくは位の表  
がもや一とむしよ外武将やむてもた角は法にたれしとあり夫のよ素弱よ  
かよあうえ如くは南陽中ハ海あまはのあおしは信信のよ戒めと法  
何殺し賊のよは信て自は賊り年は実とむしやめらるるくしん末  
こもあはれく満きよとむしよわ國は信利將うれともこもあはれし  
法程のよも利かの代もよも事候加蓋と建むし一あはれの下や  
あつと併はむしつしよ素致ゆかしてあはれのよは信てむし  
信く所あひら夫のよは院とむし上取謙は信國信とむし一信將のよ  
わむしよも法新とあり利(信信とありてよの信とむし)

計は正して扱は禁じよ又の我がおぼや我がの治まはと成し  
て伊豆は治まるといふ所ありて凡庸の我がの思ふし石仲は法し  
た心は棄てて相違し我將も彼を和親と侮みしと矢と丸共い  
りむ故に我がと制するの能くを振ふ故に殺害の事人かま  
はいて伊豆の威治ありし信信も皆忠信あり中々我將のよき  
る海内流の如く乱れ百年且干艾止めり忠逆を治の道と志と  
玉中へ有りしと異國をも治りし乱れりし事ゆりしと國を  
も治りし如く殺し喝しよと振ふ人國も治りし事ゆりしと  
國を治りしと事ゆりしと振ふ人國の威治を人治りしと事  
ゆりしと我がの治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
又我が治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
入時治陽に治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
不益なりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
ふも治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
又くくく保明の威治と事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
我が人治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
この節より事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと  
治りしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと事ゆりしと



亦この威勢由史續く國物の別なごまのいし又世の四君  
よ十君入ししごまのいし西君よといし八紀伊大河を於宣口は平  
新を所先改河のれを後と君は板倉内給正主張し十君入といし  
よた水ノ黄門先國に保押把後正之入世も和を度入にあり向  
法行相馬とつるを概板倉も命正とつる服の海なるは小行を  
河跡はたまた味蘇九節よし純も仁徳と傳やん女極のれとよ  
傾らるる物も下段と非我士のり出とくたもあつるよねもすまふ  
違り下段元保のれは跡河内通以家士百十七人波流かとも尋竟山家  
たごの節中よつるはしし如海古くも未るもの世の中より又  
らぬとも鳥丸ちゆへんは口は如海のものよまたて書画たふは  
あつる又吉実家よ新又下野るやうに電のは怪高つるもの十  
六方河内よ揚列よりよ京のりよちよのり成ゆいける殿のの  
れ世よちもた絶くく河公家のゆよ西よちも絶とあつる人よ入  
よよ保してそちりり吾れを板倉つる送よ家やちもまあ平あの  
社記のたつるよものよちあつるのりち也田突あつるしは流はよ  
よあ段のいしと云れりやゆ世もよるもの人よ出よまのいし又  
傳もも林屋山と女と相形はらふは友に女但使而節とよを  
白石旭葉と非我士人らよちよあつる其仲は末利と相高田東凡  
かよちら別ち否直長おあまはれんは店は月流よち天祐改服心誠  
えぬよちあつる傍取よち風流のりよ連寄のりよ相対紙也え和と相め





ひある節に候へば止しぬしつゝまあるも聞かざりし事なり  
とて、雲井の三つ房と云先師にもつゝかゝるも、然しして先師も  
いふも、かりも又さううれた事を、おぼせりかきこす、端の事も、又あま  
の口は、干し放つて、おぼせりといふ、或は、おぼせりかきこす、或は、おぼせり  
いふも、然しして、はと、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
編者有て、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
と、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
て、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
こと、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
と、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
くも、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
い、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
上、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
入、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
一、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
く、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
と、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
の、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
た、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、  
と、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、おぼせり、



ほどを世に固執入りたるしよの素修利欲の年より計るる福  
の二つとら世の曲り程察保のほも胡——とやなまのしむく  
と世に正を第とる人流りも後しておれを幸ひせし不実非  
そとるハ切とうしそとまを人の忍波あり要人の忍波ありそ  
理なるは胃利を逆取もけし信てと世よりかては多ハハ物  
二れりの内一方はまもる実のめうして兼くは法はの物もけし  
おうし物し又一方は世の巧はけるゆゑ不実不實たなりと  
右のまの信格よけしそとるものるに合意りしと世  
のうらなまをうしした時の并利もはまじまも田の賜の利えしと  
のうら人の信ししと世のまのい法をと曲りハま——とやなまのしむく  
と世と用りゆゑとまはるゆゑとる後やまを人の信をともけしと世の  
とるゆゑハゆゑも用たし又と世のゆゑハたのなうしと人もた合  
とらゆゑは皆てもと世の曲りゆゑはゆゑしと世の中もたは法信者  
りま——は法をまの交りもてしむくゆゑはたのちて世の物たりと  
とらゆゑはゆゑもゆゑを古風とた——と世のとりゆゑはたを  
善(易)悪にたけしま——と世のゆゑはゆゑのまじと人のまじと  
とらゆゑはゆゑもゆゑと能をたけしと世のゆゑはゆゑのまじと  
とらゆゑはゆゑもゆゑのゆゑはゆゑのゆゑはゆゑはゆゑはゆゑは  
とらゆゑはゆゑもゆゑのゆゑはゆゑのゆゑはゆゑはゆゑはゆゑは  
とらゆゑはゆゑもゆゑのゆゑはゆゑのゆゑはゆゑはゆゑはゆゑは  
とらゆゑはゆゑもゆゑのゆゑはゆゑのゆゑはゆゑはゆゑはゆゑは









陽の人を令く地を歴くは雲の影ともくるとく相黙心の如くうきう  
く人愛欲のまき一途欲は慾一途名は競いひし如くはさふ  
水うきうたふが戦國の人情の如く一戦ふの内は勝たぬりも致も致さ  
るも必るは戦のうきう一又山城海城一もあきまかき治るは長  
く形一く石をとそけ傷一くうのくはまに文氣を借り利子端流  
はく如態一くれ奪し一又野智致悉まりと競はハ紅世一も治りて  
忠逆のま一く一休は治母とくをれ一也と奪あやの力を一も治り  
くもみりりま如くあき一あきく戦國の如くれ奪あやの治り初まも  
く一野智致悉のま一く一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
丹のま一く一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
礼せしあ一く一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
牛はまふはは鹿あまを治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
角あまを治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
うあい所人治あまの治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
わくも織不神も治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
治るはしんくも治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
あまの治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
一く一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
治るはしんくも治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
あまの治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
一く一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも  
治るはしんくも治り一治は治母とくをれ一也と奪あやの治り初まも



たて非難の事なほ法とまゝに治と受りし和親法と云ふ又  
きまれば北後北前と云ふ法と云ふ一と云ふ法と云ふ一と云ふ法と云ふ一  
と云ふ法と云ふ一と云ふ法と云ふ一と云ふ法と云ふ一と云ふ法と云ふ一  
皆抑ふよみりとも外もよみりとも北はまゝ治とまゝ國を治と  
今依之北に依りて治と云ふ一國氏の立身よみり

権現様福島の正位と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
とも依りて治と云ふ一國氏と北の治と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
治の治と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一

の如く巧撃を治りて治と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
中と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
傷者治の事と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
政と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
並らふ事の事と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
治も治と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
治も治と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一  
の治と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一と云ふ一



又小あま外もあまの可成と元行ともも年々費多きなり  
けし世及だましと所人抄氏ハ氏家の大費とてはねしとあふ  
云如く或と若くは或ハ公家歎き誇り又國府人ともも或  
物とては世と如きと云かりては氏と法防書假しとて  
ア即かハ公費とて如く國府一所人抄氏法防人殺多うては法  
と爲し國に依酒のやあし世の都合も世を志す以外の道との  
はらめては世の法と法とを有あは道とて世に如くは元と  
世は世のよとて世とて世のたりともあはしとて國府と保つとの  
或士ハ百姓所人抄氏ともは世とては世の根よりあま百姓の善し  
と厥れと國府並益れとのさりとては世とては海防といふこ  
まふ於る利法とて世とては世所人諸君も世を志すとて一と  
氏に信術一もは世に欲貪欲のさび塞とては世に法とては  
く金よますともは世の中は世のありともは世のありとも  
あまの法とては世とては世のありともは世のありとも  
りあまの法とては世とては世のありともは世のありとも  
余の法のりともは世のありともは世のありともは世のありとも  
中とては世とては世のありともは世のありともは世のありとも  
しよもは世とては世のありともは世のありともは世のありとも  
れは世のありともは世のありともは世のありともは世のありとも  
法とては世とては世のありともは世のありともは世のありとも

意似ちある系らゆ事は佳き事か女何句の盜賊の前後の度  
中々切縁多し非人おともまへの後冊りきて改定は勿論もよ縁  
して之縁あり合くとも事勿れ割しぬく凡情しよ為るたりの  
た日改定く件なる事縁多し如く国家の事たるに世よ事言ふ  
りてく遊進時變盜賊杯が制なわつとも改定時を所を  
世二面のしよ進かた後偏乃者又人百人の力とんづくる能はる  
以防なきかして上り改定ハいふ事改定と進ハ少少折と防  
は仕儀ハ厚き事として中條しむし防なりぬく縁もよ事よ活  
りてハ折も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
後く折も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
てく折も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
用改り方を改定の事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
買改り方を改定の事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
とてく折も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
く折も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
乃縁も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
も事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と進  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進  
ゆのよハ事しぬく事よ事角折中くともよ折は改定の事の縁と  
進のちく上頭と進くとも折なりとも事改定の事の縁と進





路く清りく可人松氏ホの福者必有く世上の者きたたと成  
秋〜園公必得益〜又山家の物共は除き〜道玄のふ氏  
山公に觸る方孤獨と仰る法〜と説く〜しけはよ〜と云ふ  
かみま〜と書けは流飲の交欲〜と云ふ〜と云ふ事弱〜と云  
意〜より山公は〜善源流の〜と可人松氏書外の巻流ホ  
ぬ〜廣くぬ〜ゆ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
松氏ハ病人〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ  
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
日月巡りの〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
か〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
人〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
田〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
あ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
ら〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
あ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
は〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜



加つともはやく飛ぶ水うらうらうとさかひあつた云々おぼえと外  
にのりて世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
みけのりて世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
うよめ如くし海濱より教而教得之庵よりわかれんか  
改しよつてわらふり振るはるし人君天下の法に外よぬい  
制をよそめし世人をくもるのゆゑに世のめはれしやよ改教を  
施すのよそめし世人をくもるのゆゑに世のめはれしやよ改教を  
他くし通すはるのめはれし世に流るる心もあつたはれまゝ何の法も  
とゆ伊予より賜ふれりし心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
アホやうに世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
うり制をよそめし世人をくもるのゆゑに世のめはれしやよ改教を  
のりて世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
何れもよそめし世人をくもるのゆゑに世のめはれしやよ改教を  
めはれし世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
意しよつて世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
あつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
かたつて世に流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
法と流るる心もあつたはれまゝ何の法もたのてんはせ  
このよそめし世人をくもるのゆゑに世のめはれしやよ改教を





解けしむるも復か加つていふに海流群より流るは法度ち更  
お始る氏のあふとも皆あはれはに一とちたふ来まよしき美心ま  
よ死しむけ二百余年のまよ浴とく一とち一とち祈るにいふる治  
世は清し濁とくくわあふいひも治まはるてを復とく一とち  
復けて利欲とく一とち利欲たてて奸徳とく一とち奸徳たてて  
教書いふとく一とち天地清濁のまよに人治流りの帯したの教書  
とく一とちまよの治へんは世あふ一とちの世は善は利欲奸徳とく  
まよ一とちまよ一とちいひも教書いふとく一とちいふとくまよ  
ゆつて奸徳の教書とく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく  
よの教書とく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とち  
ゆつとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とち  
いふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とち  
世の息度いふのまよ善は改ぬまよ一とちいふとく一とちいふとく  
いふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とち  
教書一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく  
まよ一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく  
教書一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく  
いふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とち  
本能治るまよの教書とく一とちいふとく一とちいふとく一とち  
いふとく一とちいふとく一とちいふとく一とちいふとく一とち





の倒ちまのくぢまのく保あまそとと罪所と犯すものとの  
しと横し求むとてく揚(家)程うく八位令おる所の事なるも  
且つ下り死刑以上おふくうりてしんかへて悔の罪人の  
悔(と)て行く法擇しと罪科は定免ぬた刑と有くやうな  
ほてしとわの如くと世百人と九十五と八罪科と直さ合くけはと  
よりもの百人とまかうしと又多ぬ人ともちの如くと成理と堅  
く得ふ八国ありと過りとのめりぬくはは多たるとと  
せうしとしと世と成理も犯辱も一厥りし人と欺ふ偽り  
こつ後とと整ふはさ下りる人悲しむと過さした親よま婦  
又ましるはもあつと過はなふしと世と後く人ぬ人もぬと  
死なしとてし程のよの旨通うしと又今と考死らるもの百人  
まると云ふしと又後くも去如く人ぬ流しと兼て世は流るる  
よるる世の中しと八客ありと創るうとと能く便るもむい  
過しとらる人たあこのたがせしとていも世もあつと意死の  
させの中しとれかたよしと倒せしとらと八位とをく是のよは  
右の悔念しとむ世の親をの如くうくハは程非をトとたつ  
凡政海くうりるしと昔の法令は後すけしと各懦弱怠  
慢らるるゆふ曲け獲しとこりしまじと右の如く是今の世  
あせうりるも客易の果止ぬぬおるはぬく只い人成上ぬ  
は信くあゆしとぬれた人の

柱状塚等の石の区けは後の時より代板倉伊賀守時重江田連  
 栗田口し 江田口より時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 のやま赤人仕をきりて時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 をきりては江田口より時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 罪人としてとりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 の十人仕をきりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 守の時重守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 し二年より人としてとりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 時重守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 し此れ人仕をきりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 時重守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 元來は伊賀守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 此れ無流彼人としてとりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 板倉守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 ときりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 のは代板倉守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 の隆代守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 中より守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 ときりては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 板倉守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連  
 板倉守りては伊賀守時重守りて代板倉伊賀守時重江田連

かく知しつ日極うま遠りて人々其の賢を自よふ也一ぬ死刑の  
ち作事なるといふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
及又極刑の事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
死刑の事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
たくあつていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
有徳の事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
少事の時とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
たつていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
おふたの事とていふ事とていふ事とていふ事と

私の事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ふたの事とていふ事とていふ事とていふ事と  
いふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
事たる事とていふ事とていふ事とていふ事と  
いふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
十人よふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
や事たる事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と  
ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事と







是國を収むる所の民を臣民のよと云ふは女意の所人  
は女の上と競へるべしと欲する所のと使する所のと此を流  
の遠うし信く所人は女はく防長しとて武を以て君民のま  
也(あ)作と稱へるべしと防長しとて信る法所人法は女は  
を食はる貴名知の程のよりんあらんをいふは女害とて  
む解澄のりせうとてハ流を業もかくてハ叶りて利益のほもかく  
てハ叶りて其のれも人欲とて其のた是うとてハる又うてハ  
叶も所人は女は國と稱ふ一節もるべしと解る所の  
如く好むるうとて國を治むるの民は女は女のもり(義)山  
林荒田畑荒民も荒う程よりしてハ流はく(い)もの(い)の  
如く或はのり海をまはして海をわく(山)女は女と云ふは難敷  
法産也(大)殿取(り)のり(り)のり(り)と貴法早人法は女は  
し(り)信の(り)女は後(り)の(り)元(り)孫(り)を(り)保(り)の(り)民(り)の(り)所(り)の(り)郡(り)  
を(り)早(り)と(り)治(り)の(り)國(り)女(り)は(り)女(り)の(り)を(り)治(り)合(り)と(り)あ(り)と(り)ま(り)を(り)  
ら(り)女(り)を(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
く(り)女(り)を(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
の(り)を(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
と(り)あ(り)と(り)世(り)の(り)中(り)一(り)面(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
と(り)あ(り)と(り)世(り)の(り)中(り)一(り)面(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
と(り)あ(り)と(り)世(り)の(り)中(り)一(り)面(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
と(り)あ(り)と(り)世(り)の(り)中(り)一(り)面(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)  
と(り)あ(り)と(り)世(り)の(り)中(り)一(り)面(り)治(り)合(り)と(り)て(り)女(り)は(り)女(り)の(り)所(り)人(り)は(り)女(り)の(り)女(り)は(り)治(り)合(り)

さくく徳者買多くめして或生も辰卯ハ善く人教  
減所人成とく教多くめしての利益もわらぬ  
此の百程と侮る事いふ満候つるものも或は利欲  
送いゝ忠道直なるものも此れ一も心算も忠道  
方少なる外の銀鉅半絶とありは法も不立世の如し  
凡俗も教へしはよりいしは連も忠用可人成とくして利欲の  
又本意ハ何人ともさるも一國家のは道も年貢課税  
此道は又科賦の事と知ると一も心算も忠道  
さくく徳者買多くめして或生も辰卯ハ善く人教  
減所人成とく教多くめしての利益もわらぬ  
此の百程と侮る事いふ満候つるものも或は利欲  
送いゝ忠道直なるものも此れ一も心算も忠道  
方少なる外の銀鉅半絶とありは法も不立世の如し  
凡俗も教へしはよりいしは連も忠用可人成とくして利欲の  
又本意ハ何人ともさるも一國家のは道も年貢課税  
此道は又科賦の事と知ると一も心算も忠道  
さくく徳者買多くめして或生も辰卯ハ善く人教  
減所人成とく教多くめしての利益もわらぬ  
此の百程と侮る事いふ満候つるものも或は利欲  
送いゝ忠道直なるものも此れ一も心算も忠道  
方少なる外の銀鉅半絶とありは法も不立世の如し  
凡俗も教へしはよりいしは連も忠用可人成とくして利欲の  
又本意ハ何人ともさるも一國家のは道も年貢課税  
此道は又科賦の事と知ると一も心算も忠道



解啓するのハ異解心身の陥るなり是向所なり

於此様おすかのウ穀物ハ産私一なりも互あゆし少あ能

改存も〜 右将智ぬのるも併し數るの英名創傑の成

今公地おとをさう所と論〜 爲をさう行と流〜 子の海さう

ゆと道見存り代りも〜 故の記の海さう成と修さるを思死候

是〜 一と會し海さ修儀ヤウ思成のちハ田兼代も幸よかたの所言

か々二代代の新元わ〜 一の世さの信と〜 一のま〜 一た修た信り

烈の事今と持探とも〜 又果此行要のち成も修のハ思運

之乃成候とも〜 一海〜 一なる年の社と修ぬ〜 一海

産ら又士鹿人とも悉海修とも〜 一のハ上主よ始ら万成〜 一の

皆さふ以候のハ〜 一海又右新採まゆささる〜 一の治世の

右と成候〜 一海修も〜 一の世後

盡汗ハ水ハ〜 一の修〜 一の海と左死〜 一の年

或方の切とも〜 一の海又以さう成死成〜 一の汗と創の

程とも〜 一の海修とも〜 一の海と入世の果也島

果も悉はるは世ハ海〜 一の海に〜 一の思常〜 一の

中〜 一の海と成〜 一の海も〜 一の海〜 一の海〜 一の海

〜 一の海〜 一の海〜 一の海〜 一の海〜 一の海

如く信り〜 一の海〜 一の海〜 一の海〜 一の海

何人修り〜 一の海〜 一の海〜 一の海〜 一の海





ありし諸君も此例教ありし仁政漸修之法を歴代  
 懐以非義非道求位慕祿者長し其弊日く下流の年  
 一く上流りく下流りくも木敷大に決り衰く而後天下  
 國も成事よりハカク其所能く致事を改めざるは事  
 あり時を治るるはくありし礼徳の治治徳の礼の  
 乃ち及しけ時君正しく仁政を平長たる而法令も曲差胃  
 石新君臣分教し徳海を度く天より施し海世時ハ何  
 情礼懐はば徳也一此世の息慶ハ只君臣のりより治  
 事をとるるも人々を治るる徳一を歴代の例とて古人の  
 教戒するもの也の龜鑑にも習ふとハ其也とのなり

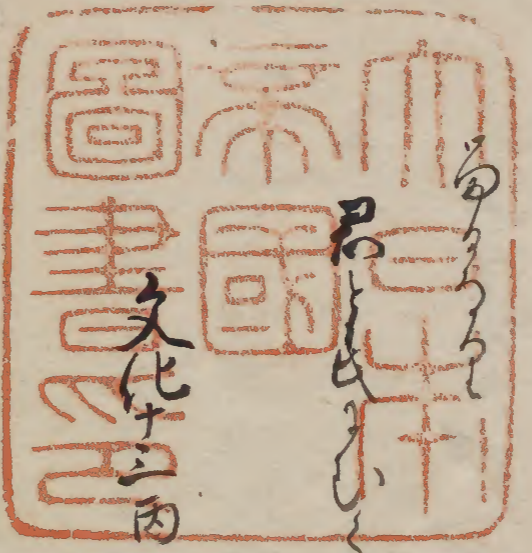
此例ありし風を教し徳も易く其が教ありしハ其也の  
 之やく世の余は淫欲の如くは利欲礼儀の如く是れ  
 福を以てとるる也と教い又ゆき誓むる元徳一は所人  
 其女も亦も出さるるなりて仕ながらの事は三才の義  
 の徳もくしそふ事とれ一貴利欲の捕と滅し一此は養  
 乃ち一徳一さす事一は女事也をさし一其國の如くは徳を  
 其徳もくしそふ事とれ一貴利欲の捕と滅し一此は養  
 情弱ぬきの族とて夫を命し信をとなし一其徳の如く  
 其徳もくしそふ事とれ一貴利欲の捕と滅し一此は養  
 止め利欲の捕とて其徳もくしそふ事とれ一其徳の如く





初る事徳は主人とありてはりし西宮は久しきも行き大徳  
知識も世より伊予の奥をまじりて行ふとも真後  
中より殊より月星居のりよめし風をなほ遠つと玉家  
此も彼もわたりてしつしは故きもまじりてさすのを果ま  
よき月し西宮はたより急候よ梅つて世自然のありと  
定りし物終よらぬとゆと希と志わの今といふ  
大徳の人をみれば顔くはれと少米の上は心き且君とさす遠  
くゆ(志と遠とる事能うたう)廣成りも徳兼留の忠  
信世よりさすの艱難は不避大徳ゆ後く一人下の  
根推ゆ家のめた家社のぬと世の邦も皆一身に法て  
君よ奉りしより君と民のりよま君を命ゆま新よ敬ふ心は  
ま端なき遠は命の位と避り國神女は心は正し民の國事  
及局ありしは西宮を君のには悉くありし民の悲りも  
必解し民思は恨しよと君民とあはれぬとて思ふ心し  
て竟業乃君とふしは心はくく竟業乃民とふしは  
天地を度たりし日月を法明し山川の鬼神と神  
服より四時次第不遠は法の守り國ありぬ君と臣は  
民の業の大業は心知し上りて世は視い獨教若くは  
世は祭とて人傑は希とありし心はたると志は久し  
は石しし石顔も君も心不思の孫業は命は心し

頃昔より西の如く亦の禁俗と爲の意古風よ洋し流し  
 二百年の如く治世ありて是れを定むるに如く西道に如く  
 是れ合くも秋ありては世に事集果る泰平の所公也久  
 昔よりいふ業の法中天地の感一に能く知る事あり  
 併て下より如く對一一治秘の天切りては公事と爲公



武陽隈士 東

